

トヨタ自動車特集

需要変動に対応、高品質維持



台車に載せて車を搬送する生産ライン



「クラウン」の側面デザインは、生産技術部門の協力があったはじめて実現した

「クラウン」の側面デザインは、生産技術部門の協力があったはじめて実現した。一方、部品メーカーとして重要なのが、トヨタをはじめとする取引先に、年間国内生産300万台をどこまで維持できるかが、トヨタが自社の生産ラインに手を付けずに国内事業を維持できる水準として設定したとされる。

この台数はリーマン前の最盛期である07年の実績と比べると約3割低い。今のような不安定な環境がいつまでも続くという保証はなく、輸出採算性が低下して生産台数が300万台を割り込むようなこともあれば、体力的な部品メーカーは、呼ぶ車輪の周辺部の車体をほぼ180度折り曲げ

13年6月の株主総会では、長年にわたり生産部門のトップを務めてきた新美篤志副社長(現ジェイテクト会長)が、トヨタ

「真の競争力」を追求するトヨタ自動車は生産部門の改革を進めている。製造品質の高さをテコに世界で成長してきただけに、生産部門の実力は折り紙付きで、社内でも大きな力を持ってきた。しかし2008年のリーマン・ショック後の落ち込みで、過大な生産設備が一転して経営の重しになった。現在の課題はいかに顧客からの需要の変動に柔軟に対応できる生産体制を作るかだ。

あくなき生産改革

柔軟なライン、世界展開

「今年取り組むテーマは、生産性の向上に尽きる。いろいろな意味でのリドタイム短縮活動を愚直に続け、真の競争力への答えを探っていく」。豊田章男社長は5月の記者会見で、引き続き生産改革に挑む姿勢を鮮明にした。

リーマン直後の09年3月期、トヨタの損益分岐点は年間生産台数にして880万台あった。これを、正社員の雇用に手を付けることなく700万台を切るまで引き下げてきた。この国内生産能力のスリム化こそが、単体営業損益の黒字化において力となる役割を果たした。

その改革の一つが元町工場(愛知県豊田市)生産技術開発棟の「伸縮可能な組み立てライン」。車両の最終組立ラインで、従来の年間生産能力が15万台だが、同7万20万台の間で調整できる。こうして改善を、いかに進めさせていくかが目の課題だ。まずは新しい柔軟な生産ラインを世界中のトヨタの工場に展開する。品質もさらに高いレベルを追求している。

国内生産300万台死守

技術・デザインでも貢献

作業を深く分析し、良品が生まれる条件の洗い出しを進めている。3点目が、同じ生産能力に要する設備投資の額、つまり投資原単位の4割削減。このため生産設備や金型などを徐々に内製化している。

条件の厳しい塗装設備でも投資原単位の4割削減と据え付け期間の半減という目標の達成は見えてきた。競争力で他社をダントツで引き離すような理想のモノづくり。その追求は今も続いている。

豊田社長は簡単に国内生産300万台の堅持という方針を撤回するつもりはないようだ。80年代から、国内に約300万台という規模の事業基盤がある。この規模があつてこそ国内関連産業の競争力を高めることができ、トヨタの海外での成長の礎になってきた。(豊田社長と考えるからだ。)

トヨタは今後ももっとも競争力があるところで生産する、という考え方で海外生産の方針を決めていく。従来の「需要があるところを生産する」というものから進歩した考え方が、日本が競争力あるモノづくりの拠点であり続けるために、国内工場のさらなる進化が求められる。



海外工場の競争力も高まっている。「ハイラックス」を生産するタイのバンポー工場)

スリムで柔軟なモノづくりに向けて

名古屋駅前のランドマーク

ミッドランドスクエア



屋外展望施設スカイブロード



商業棟アトリウム



東和不動産株式会社

www.midland-square.com

地球が現場です。

私たちは現在、60ヶ国以上のグローバルネットワークを通じて、世界中のお客様とビジネスを展開しています。金属、自動車、自動車部品、機械、エネルギー、化学品、エレクトロニクス、食料、繊維、保険、生活資材など、幅広い事業領域で、豊かで快適な社会づくりに欠かすことのできない商品、サービスを提供しています。自らの没を誇り、地球規模でパートナーと共に新たな価値を創造する。世界のマーケットを熟知したプロフェッショナル集団として、豊田通商は挑戦を続けています。

グローバル
パートナーシップ。
商社未来形、豊田通商。

G VALUE
with you

豊田通商株式会社

金属/グローバル生産部品/ロジスティクス/自動車/機械/エネルギー/プラントプロジェクト/化学品/エレクトロニクス/食料/生活産業
名古屋本社: 名古屋市中村区名駅4-9-8 センチュリー豊田ビル 〒450-8575 TEL 052-584-5013
東京本社: 東京都港区港南2-3-13 〒108-8208 TEL 03-4306-8200
www.toyota-tsusho.com

Creating the next value

—モノづくりで、まだない価値を。—

過去から現在。そして未来へ。

より安全で安心に、より便利で快適に、より地球にやさしく。

モノづくりの進化は、時代を、社会を動かしてきました。

モノづくりで、まだない価値をつくりだすこと。

みなさまの暮らしや、グローバル社会にもっともっと貢献するために、

わたしたちの技術を、産業や社会のさまざまな場面で使っていただくこと。

それがジェイテクトの存在価値だと、わたしたちは考えます。

ジェイテクトグループは、常に時代の先を捉え、

進化しつづけるリーディング&チャレンジング・カンパニーです。

JTEKT



株式会社ジェイテクト



自動車部品



軸受(ベアリング)



工作機械・メカトロニクス

www.jtekt.co.jp